

日本心電学会誌

心電図

Volume 26 Supplement 4 2006

第4回 特発性心室細動研究会

Japanese Journal of Electrocardiology

目次

第4回 特発性心室細動研究会

「第4回特発性心室細動研究会」特集号の発行にあたって	平岡 昌和	3
1. Brugada 症候群とその類縁疾患における遺伝子異常	蒔田 直昌ほか	5
2. 特発性心室細動研究会 (J-IVFS) 登録症例における Brugada 症候群女性症例の臨床的特徴	高木 雅彦ほか	10
3. J-IVFS 登録症例の検討. Brugada 型心電図の薬剤負荷試験 —臨床症状, 心事故発生との関連—	横山 泰廣ほか	14
4. 除脈頻脈症候群を伴う女性 Brugada 症候群の1例	鈴木 剛ほか	20
5. Brugada 症候群と診断した女性2例の症例について	中野 由紀子ほか	26
6. 複数の女性 Brugada 症候群患者を有した1家系例	辰本 明子ほか	30
7. 明らかな家族歴を有した無症候性 Brugada 症候群の女性例	田中 泰章ほか	36
8. 洞不全, 心房粗動, 心室細動, および Brugada 型心電図波形が姉妹に見られた 若年突然死家系	高木 明彦ほか	42
9. 濃厚な家族歴をもつ Brugada 症候群女性の1例	坂部 茂俊ほか	48
10. 男性突然死の多発家系において良好な経過をたどった女性 Brugada 症候群の3例	古山 准二郎ほか	53
11. 発熱時に Brugada 型心電図変化をきたした1女性例	加藤 律史ほか	59
12. 発作性心房細動を合併した Brugada 症候群の壮年女性の1例	奥山 裕司ほか	64
13. 右室流出路心内膜側興奮伝播遅延を認めた女性 Brugada 型心電図症例	福田 浩二ほか	68
14. 運動誘発性非持続性心室頻拍を認めた中年女性の Brugada 症候群の1例	田上 和幸ほか	73
15. Ic 群抗不整脈薬により Brugada 型心電図波形を示す発作性上室性不整脈患者の 頻度とその予後	阿部 敦子ほか	79
16. ピルジカニド負荷試験にて心室性不整脈が誘発された Brugada 症候群の5症例	芦野 園子ほか	85
17. Brugada 型心電図を呈する症例に対するピルジカニド負荷前後での心電図変化と 心室遅延電位による検討	手塚 尚紀ほか	86
18. Brugada 型心電図におけるピルジカニド負荷加算平均心電図での 心室遅延電位を用いた突然死リスクの検討	溝渕 正寛ほか	91
19. SCN5A 遺伝子変異を有する Brugada 症候群の心電図および電気生理学的特徴 —ピルジカニド負荷試験を中心に—	伴場 圭一ほか	97
20. 電気生理検査による心室細動誘発と薬物負荷試験 —ピルジカニド負荷試験による心電図変化と心室細動の誘発性—	上山 剛ほか	102

「第4回特発性心室細動研究会」特集号の発行にあたって

特発性心室細動研究会 (J-IVFS) 代表幹事 平岡昌和

(東京医科歯科大学名誉教授・労働保険審査会)

特発性心室細動研究会 (J-IVFS) では、Brugada 症候群ないしは類似の病態を含む特発性心室細動の病態に関する全国的な規模での研究会を立ち上げ、調査研究、情報の交換と本病態の解明を目指して平成14年から活動を行ってきており、その症例の蓄積も200例を超えるものとなっている。この研究の主たる活動の一つである研究発表会は、1年に1度開催され、その際の発表内容は日本心電学会誌『心電図』の特集号として発行されている。本特集号は、平成18年2月に開催された第4回特発性心室細動研究会での発表内容が特集されたものであるが、今回は、男性に多発するとされる Brugada 症候群の女性例に焦点をあてた「女性の Brugada 症候群」と、しばしばその診断に用いられる「Brugada 症候群における薬物負荷試験」をテーマとして取り上げて、それぞれの問題について発表と討議が行われた。「女性 Brugada 症候群」については、当初応募演題が集まるかが心配されたが、11施設から予想を上回る症例数の報告がなされた。その内容を見ると、男性例に比べて家族歴が多く認められるが、臨床症状としてはそれほど重篤でない症例が多いことが判明し、本症候群における性差に関して興味ある知見が得られている。「薬剤負荷試験」に関しては、それぞれの施設において、様々な角度からその有用性や特徴が検討されているが、まだ確定的な診断基準の確立までには至っていない現状が伺える。ただ、ヨーロッパ心臓病学会の不整脈グループが提唱した診断基準「Type 1のST上昇型心電図変化」が認められた場合に陽性とする判定には、我が国の症例では当てはまらない例がかなりの確率で認められるようで、今後さらに慎重な研究の必要性が痛感された。特別講演では、蒔田直昌先生に「Brugada 症候群とその類縁疾患における遺伝子異常」について、先生の豊富な遺伝子解析とそれらの機能解析の経験を披露して頂き、参加者に Na チャネル病の新しい概念と知識の整理・啓蒙をして頂いた。このように、本研究会における検討と全国の各医療機関に依頼している調査研究を通じて、Brugada 症候群の病像の実態が少しずつではあるが解明の方向に進んでいるものと自負しており、Brugada 症候群とその類縁疾患の診療と研究に取り組む方々にとって、本特集号が研究会の方向性と内容を理解する一助となることを期待するものである。

平成18年6月

研究会記録

第4回 特発性心室細動研究会(J-IVFS)

と き：平成18年2月18日(土)

と ころ：大手町サンケイプラザ

代表幹事：平岡 昌和

(東京医科歯科大学 名誉教授・労働保険審査会)